

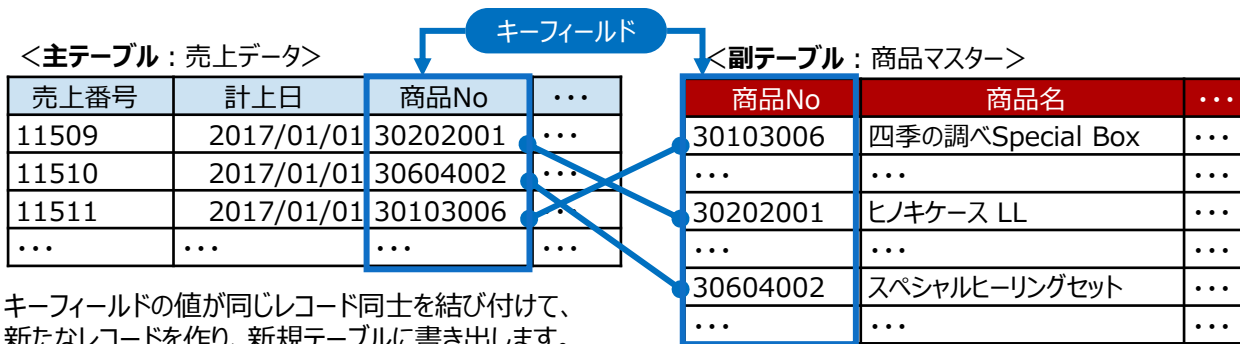
結合

2つのテーブルのレコードを結び付け、新規テーブルを作成する

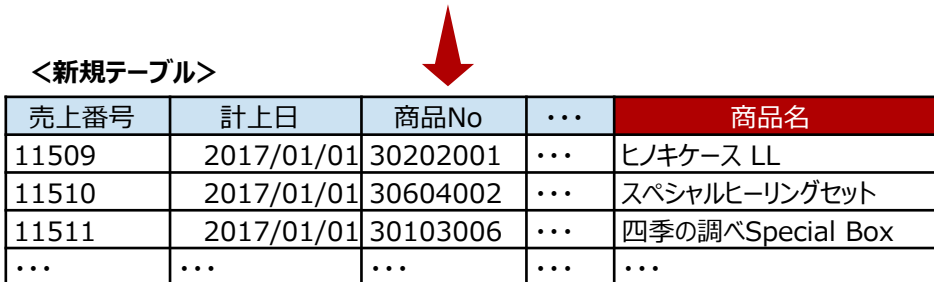
◇機能

《結合》は、2つのテーブルに共通するフィールド（キーフィールド）を使用し、関連するレコード同士を結び付けて、新規テーブルにレコードを書き出す機能です。

《結合》に使用するテーブルは、「主テーブル」と「副テーブル」として設定します。主テーブルのキーフィールドを「主キーフィールド」、副テーブルのキーフィールドを「副キーフィールド」といいます。

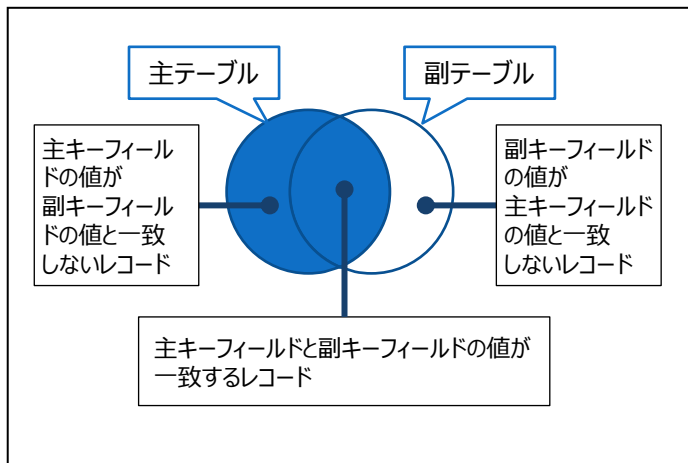


キーフィールドの値が同じレコード同士を結び付けて、新たなレコードを作り、新規テーブルに書き出します。



◇結合パターン

《結合》では、上図のようにキーフィールドの値が一致するレコードを結び付けるだけでなく、キーフィールドの値が一致しないレコードを抽出することも可能です。6種類の結合の種類（結合パターン）から目的に応じて選択します。

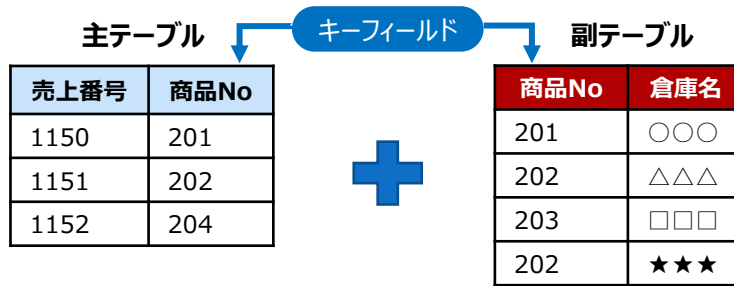


＜結合パターンの種類＞

- (1)すべての主レコードとキーが一致する副レコード
- (2)キーが一致した主レコードと副レコード(最初の1件目)
- (3)キーが一致した主レコードと副レコード(一致するものすべて)
- (4)主レコードの中で、副レコードとキーが一致しないレコード
- (5)すべての主レコードと副レコード
- (6)すべての副レコードとキーが一致する主レコード

◇結合パターン別の例

図の2つのテーブルを、それぞれの結合パターンで結合した場合に、作成されるテーブルを示します。
 (作成されるテーブルの図は、イメージ図のため、実際のレコードの並び順とは異なる場合があります。)



(1)すべての主レコードとキーが一致する副レコード



主テーブルのレコードは全て出力し、副テーブルはキーフィールドのうち、主テーブルのキーフィールドと一致するレコードのみを出力します。
 なお、副テーブルのキーフィールドに重複するデータがある場合は、最初に一致した副レコードだけを出力します

売上番号	商品No	倉庫名
1150	201	〇〇〇
1151	202	△△△
1152	204	

(2)キーが一致した主レコードと副レコード(最初の1件目)



キーフィールドが一致する主テーブルおよび副テーブルのレコードだけを出力します。
 なお、副テーブルのキーフィールドに重複するデータがある場合は、最初に一致した副レコードだけを出力します。

売上番号	商品No	倉庫名
1150	201	〇〇〇
1151	202	△△△

(3)キーが一致した主レコードと副レコード(一致するものすべて)



キーフィールドが一致する主テーブルおよび副テーブルのレコードだけを出力します。
 なお、副テーブルのキーフィールドに重複するデータがある場合は、一致したすべての副レコードを出力します。

売上番号	商品No	倉庫名
1150	201	〇〇〇
1151	202	△△△
1151	202	★★★

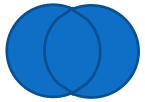
(4)主レコードの中で、副レコードとキーが一致しないレコード



主テーブルにしか存在しないレコードを出力します。

売上番号	商品No
1152	204

(5)すべての主レコードとすべての副レコード



主テーブルおよび副テーブルのレコードを全て出力するにあたり、キーフィールドが一致するレコードは、当該レコードのデータを入力し、キーフィールドが一致しないレコードは空白のデータを入力します。

売上番号	商品No	商品No	倉庫名
1150	201	201	〇〇〇
1151	202	202	△△△
		203	□□□
1151	202	202	★★★
1152	204		

(6)すべての副レコードとキーが一致する主レコード



副テーブルのレコードは全て出力し、主テーブルはキーフィールドのうち、副テーブルのキーフィールドと一致するレコードのみを入力します。

商品No	売上番号	倉庫名
201	1150	〇〇〇
202	1151	△△△
202	1151	★★★
203		□□□

◇メニュー

《加工》-《結合》

◇設定内容

1. 結合パターン（必須）：リストから結合パターンを選択します。
2. 主テーブル：開いていたテーブルが主テーブルとして設定されます。
3. 副テーブル（必須）：リストから副テーブルとして使用するテーブルを選択します。
4. 主キーフィールド（必須）：フィールドの一覧から主テーブルのキーフィールドとするフィールドをクリックして選択します。
 - 主キーフィールドと副キーフィールドは、データ型、フィールド名が異なっても結合できます。
 - 複数のフィールドを選択できます。その場合は、副キーフィールドも同様に複数フィールドを選択する必要があります。
5. フィールドの全選択/全解除：チェックボックスのオン/オフで、すべてのフィールドの選択/解除が行えます。
6. 《フィールド選択》ボタン：「フィールドの選択」画面を開き、フィールドの選択・並び順の変更を行うことができます。
7. 主テーブルの出力フィールド（必須）：フィールドの一覧から新規テーブルに書き出すフィールドをクリックして選択します。
8. 副キーフィールド（必須）：フィールドの一覧から副テーブルのキーフィールドとするフィールドをクリックして選択します。

9. 副テーブルの出力フィールド（任意）

- : フィールドの一覧から新規テーブルに書き出すフィールドをクリックして選択します。
 - 「主テーブルの出力フィールド」で選択したフィールドと同じ名前のフィールドを選択した場合、出力されるテーブルでは、フィールド名の末尾に「1」が追加されます。
 - 「結合パターン」が「(4)主レコードの中で、副レコードとキーが一致しないレコード」の場合は、選択できません。

10. 主テーブルを対象とした絞り込み条件（任意）

- : 《結合》を実行するレコードを限定する場合は、条件式を入力します。
 - 絞り込みができるのは、主テーブルのみです。副テーブルに条件を設定することはできません。

11. 《式ビルダー》アイコン

: 「主テーブルを対象とした絞り込み条件」の条件式を入力するために、式ビルダーを開いて使用できます。

12. 保存先（必須）

- : 新規テーブルの名前を入力します。
 - テーブル名の長さは、64文字までです。
 - ファイルの保存先は、プロジェクトフォルダの「04_table」フォルダです。
 - 《保存先》ボタンで、保存するフォルダを変更できます。ただし、使用可能なフォルダは、プロジェクトフォルダの「04_table」フォルダおよびそのサブフォルダのみです。

13. 《実行》ボタン

: 実行します。

14. 《キャンセル》ボタン

: 実行せずに画面を閉じます。

◇操作ログ

OPEN "主テーブル名"

OPEN "副テーブル名" **SECONDARY**

JOIN PKEY [主キーフィールド1] [主キーフィールド2] …または**ALLFIELDS FIELDS** [主テーブルの出力フィールド1] [主テーブルの出力フィールド2] …または**ALLFIELDS SKEY** [副キーフィールド1] [副キーフィールド2] …
 または**ALLFIELDS WITH** [副テーブルの出力フィールド1] [副テーブルの出力フィールド2] …または
ALLFIELDS 結合パターン IF 条件式 TO "サブフォルダ名¥新規テーブル名" **OPEN**

※《結合》は、主テーブルと副テーブルの2つのテーブルを開いて操作します。「JOIN」が《結合》の実行ログです。

※結合パターンは、選択した「結合パターン」により異なります。

結合パターン	ログ
(1)すべての主レコードとキーが一致する副レコード	PRIMARY
(2)キーが一致した主レコードと副レコード(最初の1件目)	なし
(3)キーが一致した主レコードと副レコード(一致するものすべて)	MANY
(4)主レコードの中で、副レコードとキーが一致しないレコード	UNMATCH
(5)すべての主レコードと副レコード	PRIMARY SECONDARY
(6)すべての副レコードとキーが一致する主レコード	SECONDARY

※「主テーブルを対象とした絞り込み条件」を設定した場合は、IF条件式が記述されます。